

---

# 夏慈雨

貂寡

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏慈雨

### 【Nコード】

N2074D

### 【作者名】

貂寡

### 【あらすじ】

謙と鎖奈のはかない一週間の不思議な関係。俺の物だからな・・・  
鎖奈・・・

「俺の物になれ・・・」そういつて鎖奈を抱きしめる。

強引な手だから鎖奈は、いやって言うだろう・・・

いいさ、嫌われても・・・その覚悟は、できている・・・

「いいよ・・・」

予期もしていないような返事が返ってくる

「えっ・・・いいの・・・か・・・」

とまどう・・・

鎖奈のぬくもりが、俺の胸に伝わって・・・鎖奈の鼓動が、俺の鼓動と交わっていく・・・

「そんなこと言ってる、いやになっちゃうよ・・・」なんだかそういわれると、俺の心が揺れ動く

「でも・・・本当にいいのか・・・？」

一度、教室が静かになる・・・遠くでヒグラシが夜を呼び、夕焼けは静かに燃え尽きていく

「いいんだから・・・」

その言葉を聞くと俺は、鎖奈の唇に唇を重ねた・・・。

そうこの日から

俺、夜舞謙よまいけんと夕麻鎖奈ゆつまさなの歩みは、始まったのか・・・？

私は、今日謙に呼び出された・・・何か用事があるらしい・・・  
だけど、どう付き合っているのかわからなかった・・・  
今までに、まともな付き合いをした覚えがない・・・  
長くて1、2週間ぐらいの物だ・・・

だけど謙から告白されたときは、本当にうれしかった。  
だって前から気になっていたんだし・・・  
だから謙を受け入れた。

彼の家に行く、謙も私も一人暮らしだった。だけど、ほとんど彼の  
家に行く事が多い・・・

まだ告白されてから1週間立っていない・・・  
だけどこよくちよく謙の家に遊びに行く・・・  
こんなに行ってもいいのかな・・・？

俺は、鎖奈を待っている・・・今は、夏休み・・・遊び放題・・・  
と言ってもそれは小中学生の考え、高校に入ってから勉強に忙し  
い・・・  
出入り口の前で鎖奈が来るのを金魚を見ながら待つ・・・  
金魚は俺を見ることがなく鉢の中を回る・・・  
金魚にとって鉢の中が彼の世界、  
俺が生きているこの世界は他の物から見たらちっぽけな世界なんだ  
ろうか・・・

もうすぐ謙の家に着く駅からそんなに歩かないで、着く位置にある・  
・

俺は、今日鎖奈に色々と話さなくてわならない・・・

“・・・チャイムが鳴る・・・”

すぐに玄関を開けずに少し間を開ける・・・鎖奈に待っていたと想  
わせないようにと・・・

チャイムを鳴らしたのにまだ出てきてくれない・・・  
なんだか虐められてるみたい・・・寂しいよ・・・

ゆっくりドアを開ける・・・鎖奈はというと座り込んで泣きべそを  
かいていた・・・

「どうしたんだよ・・・」少しとまどいながら言う・・・

「だって・・・チャイム鳴らしても・・・なかなか謙・・・出てきて  
くれないんだもん・・・寂しかったよ・・・」

そういうと鎖奈は、もつと落ち込んだ・・・

「まあ入りな・・・いつものソファで待ってる・・・」

鎖奈は、立ち上がってゆっくりと落ち込みながら・・・中に入る・・・

・  
いつものソファはリビングの北向きの窓の側に置いてある  
白のソファで、いつも謙の家に行くとそこに座る・・・

麦茶が入ったコップを二つ載せた盆をもってソファの側に行く  
ソファのそばには、小さなテーブルがありそこに麦茶を置いて

ソファーに座る・・・

鎖奈が話しかけてくる

「何で、すぐ玄関・・・あけてくれなかったの・・・？」

少し間をおいて・・・笑顔で言う

「何でかって・・・それはおまえを虐めたかったから・・・だっておまえは俺の物なんだから」

それを聞いた鎖奈は、少し悲しそうな顔をした・・・。

ちよつと言い過ぎたかな・・・

しかし、その顔を見ていると鎖奈はだんだんともっと悲痛な顔になってきた。

仕方がないから頭をなでる・・・少し気分が晴れたのか、なきべそから立ち直るその顔を見ているとなぜか抱き締めたくなった・・・

そして、鎖奈を抱き締める・・・

鎖奈がどんな顔をしているのか分からないがたぶんキョトンとしているんだろう・・・

その鎖奈を抱き締めたまま耳元でささやく

「おいで何時でも、俺はお前の物・・・お前は俺の物なんだから・・・」

そついうと鎖奈は鼻をすすった。

その音が可愛いのでたまらずに鎖奈の唇に俺の唇を重ねた・・・

空を飛行機が音をたてながら進んでいく

私は、謙が言ってくれた数々のことばを噛み締めながら甘い唇に甘える

俺は、鎖奈の甘い唇にすがっていた・・・

唇に甘える鎖奈をもっと抱き締める・・・

唇から唇を放して

すこし鎖奈の髪を触るさらさらしていい匂いがする・・・

「鎖奈、俺の物だからな・・・」ちよつと意地悪っぽく言う・・・  
すると鎖奈は、言った

「あのね、私好きな人ができたんだ・・・」

その言葉に笑いが出る・・・

「嘘だろ・・・お前は、俺の物じゃなかったのか・・・」

謙は、泣いていた。

「どうして泣いてるの？私は、あなたの物よ。ただ私の物にしたい女ひとがいて・・・手を切ろうって言っているんじゃないの、ただ知っておいて欲しかったの・・・私は、どっちでもいける男ひとだって言うことを・・・」

俺は大好きな鎖奈が俺から離れていくみたいで悲しかった・・・  
もう俺の物じゃなくなってしまった、絶望とヒグラシの泣き声が心に響いて消えていった・・・

（後書き）

本当に变ですみませんB L系を初めて書きました・・・色々と評価してください。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2074d/>

---

夏慈雨

2010年12月19日02時48分発行